

# 1 神明神社

藩政時代後半、二口街道の主要な宿駅として栄えた長袋町集落の鎮守として整備されました。当時盛んだったお伊勢参りに町集落からも出かけて財産をなくす者も多く、お伊勢参りに代わるものとして伊勢神宮縁の神明神社を勧請し、それを祀ったと伝えられています。



# 2 十三仏の碑

天明の大飢饉の際、飢えをしのごうと流浪してきた人々が、対岸の竹ノ内方面から名取川を越えて断崖の急坂を登った所で息絶え、その供養のために建立されたと言われています。秋保郷の飢饉の時代を物語る石碑群です。



# 3 浜坂・楯山遠望

四季折々に名取川越しに楯山の勇壮な風景が広がるビューポイント。天気によければ、蔵王山も遠望することができます。戦国時代、奇襲を受けた秋保氏は、楯山城での籠城戦を展開したと云われ、そのさなか、飲み水の豊富さを誇張するため、食料たる米を頂から滝のごとく流したという逸話を伝えています。どのあたりだったのか、そう思いながら山を見ると興味はつきません。



# 4 家中集落「館」と長館跡

秋保氏が館山原(楯山城)から居宅を移して整備したと伝えられる長館は、入り口から最東端の秋保氏屋敷まで4か所にわたり大きな土塁(①②③④)を築き、外敵の侵入に備えたと言われています。土塁の頂部の幅は最も大きなもので10mあり、現在でも確認できます。

秋保氏の屋敷は、今は残っていませんが、氏神として祀られた稲荷神社と、その背後に太い枝を伸ばす樹齢500年といわれる大いちょうが、秋保の歴史を見守ってきました。近く樹齢300年の大ヒヨクヒバとともに市の保存樹木に指定されています。



# 5 六角地蔵



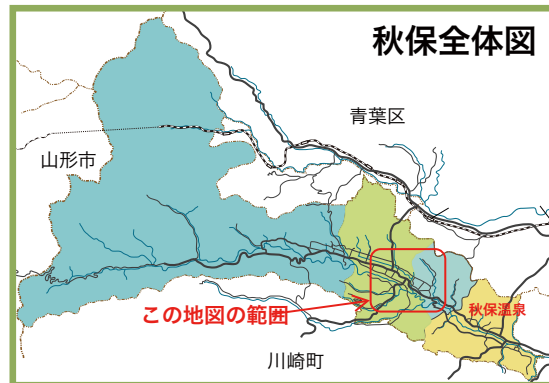
中世より、武士たちが闊歩した楯山城跡の麓にある楯山原の一角にあります。全体は六角形で、風化が進んでいますが、一面ずつお地藏様が彫られており、武士の霊を鎮めるために建立されたといわれています。

# 6 秋保氏墓所



仙台藩開府に伴い郷所替えとなった秋保氏が、刈田郡小村崎村から再び秋保へ戻った居館が館山原の「御屋敷場」と云われ、その西に復帰後の歴代当主たちの墓碑が並んでいます。「館」集落の墓地が併設され、家中一族の歴史を感じることができます。

# 長館跡・楯山城跡の図



# 7 楯山・楯山城跡



秋保氏が、秋保郷統治の拠点として整備した城館で、戦国時代末期まで使用されました。戦乱期、他勢力に一時城を奪われることもありましたが、領民の絶大な支持と協力を受け、見事奪還した誇らしい伝承があります。登山口は、ガラス工房「海馬」の駐車場の脇にあり、急坂をゆっくり登ると、約30分で平らに開けた草地に出ます。秋保郷のほぼ全域を見渡すことができます。標高334メートルの山上に広がる平場とその周囲を囲む土塁や堀形は、戦国時代の緊張した山城の空気を今に伝えてくれます。

# 8 グリーンフィールド えむ

広大な敷地に芝生のフリースペースが広がり、花壇やブルーベリー畑、緑の屋根と白いサイディングのかわいい店があります。店内には手作りのドライフラワーアレンジメントや輸入雑貨が並び、コーヒーやハーブティーで休憩することもできます。入り口手前には、楯山ギャラリーと陶房とよこがあり、覗いてみるのも楽しいエリアです。(開店日、開館日、時間要確認)。

